

舞鶴市廃棄物減量等推進審議会（第8期）第5回会議 摘録

【日 時】 令和7年11月4日（火）午後2時00分～午後4時00分

【場 所】 市役所別館5階 中会議室

【出席委員】 山川会長、青山副会長、佐藤副会長、尾上委員、木谷委員、品田委員、高本委員、谷口委員、寺島委員、永野委員、森委員
(12名中11名出席、有効に成立)

【事務局】 市民環境部長：吉田、市民環境部次長：大谷、生活環境課長：有田、同主幹：吉田、環境施設課長兼清掃事務所長：清水、リサイクル事務所長：志摩
学校教育課長：日下部、同主幹：水嶋

【傍聴者】 なし

1 開会

2 議題

(1) 「3Rの推進」について（食品ロス）

①有田課長から資料1-1～1-4について説明

②質問・意見

(青山副会長)

2割近く食べ残しがあるということだが、どういう風に処理されているのか。

(日下部課長)

廃棄という形で、処分している。

(青山副会長)

コンポストに入れている学校はないか。

(日下部課長)

なし。

(山川会長)

給食の量を減らしたり給食時間を増やす実験はあまり効果がないとあった。どのくらいの期間でどんな仕組みで実施したのか。どうして効果がなかったと感じたのか。

(日下部課長)

残食に関する課題意識から実施したが、内容は2つある。1つはご飯の量が多いという子供からのアンケートから、ご飯の量を200gか150gを選べる方法を試行した。事前に子供たちに希望を聞き、それに応じる形である。中学校7校の内の2校が1週間に渡り実施し、残食の量を前後で比較したが、大きな違いが見られなかった。もう一つは、アンケートで給食を食べる時間が短いという結果を受け、1校が1週間、片付け込みで20分のところを5分延長したが、こちらも前後で大きな違いは見られなかった。

(山川会長)

一人当たりの残食量は、欠席者等を省き、実際に食べた人で比較したのか。特段違いがなかったというが、具体的には何パーセント程度の差だったのか。

(日下部課長)

実際に食べた人で量を計量した。5分間延長が実施前28%、実施後29%で微増している。ご飯の量の選択制は実施前15%、実施後17%でこれも微増した。

(尾上委員)

残した児童の理由の割合は、量が多すぎるが約4割、時間が短い約3割、嫌いなものだから約7割。児童なので小学校の調査だと見ている。改善の紹介ページで色々なことが書いてあるが、

中学校も小学校と同じ問題を抱えている。今回は中学校の給食について見ていかなければならぬので、中学校と小学校の残食量の差を教えてください。

(日下部課長)

小学校の方が量としては少ないと思う。中学校の給食はスクールランチ形式で弁当だが、小学校は自校で料理しており、量を調節できるという違いがある。小学校は残食量が少ないが、あるにはある。感覚的にはご飯もおかずも家庭用のバケツ 1杯分ぐらい。

(谷口委員)

試行期間は、2週間から1ヶ月必要なのではと思う。中学生は周りの様子を見ながら「友達がそう調節するなら私も」とか「25分に伸びれば少し食べられる」と1週間で身につくのだろうか。山川先生が言われる効果が得られたケースの期間はもっと長かったのか。

(山川会長)

1週間より長かったと思う。時間を要して手間がかかるが、1週間がモニターをするのに適正な期間だったのか検証されたのか伺いたい。

(日下部課長)

ご飯の量の選択制は1ヶ月間を設け、計測をしたのは最後の1週間。時間延長は1週間実施し、計測もその一週間。

(佐藤副会長)

中学生は弁当箱に入って配達されるのか。ご飯の調節はどのように要望を出すのか。

(日下部課長)

ご飯とおかずの容器は別で、ご飯の量の調節済みの容器を希望した生徒に配る。これは概ね好評だったと聞いている。

(山川会長)

アンケートで3割がいつも給食を残すとある。時間が足りないと答えた生徒が改善したかはわかるのか。

(日下部課長)

追跡的な調査をしていないため不明。

(尾上委員)

ご飯が嫌いという子は少数だと思う。残食量が多い理由は嫌いなおかずが入っているからで、ご飯の量の調節ではないと思っている。ご飯の量は調整しやすいが検証はしたのか。ご飯が残っていることの検証はしていないのか。

(日下部課長)

生徒からご飯の量が多いという声を聞いて試してみた。例えば野菜が嫌いとかの声があるが、それに対して、野菜の量を減らしたりはしていない。栄養士が1日に必要な生徒の栄養素を計算して献立を作成しているため、変化をつけていない。ご飯が残っていることの検証はしていない。

(尾上委員)

好き嫌いが残食の理由だと思う。おかずとご飯それぞれ残食量の比較をしなければ判明しないのではないかと。

(山川会長)

小学校でそれぞれバケツ一杯残っているとの話だったが、量的に見てどっちが多いのか。

(有田課長)

おかずにもよると思うが、資料のアンケート結果では、昼食を残す理由として「主食の量が多いから」が5番にある。

(青山副会長)

やはりご飯を残す子がいるので、食べてもらうため、教室に自由に使えるふりかけを配置したら残食量が減ったという例があった。カフェテラス方式は日本ではできないか。私学だとカフェテラス形式で、食べたいものを取って食べるやり方をしているところもある。

(山川会長)

最近の小学校はおかずが美味しくなったという話だった。カフェテラス形式でも食口のリスクが残る。

(永野委員)

資料1-2にお弁当箱の写真が載っているが、おかずの箱とは別にご飯の箱があり、また汁物の箱があって、牛乳がつく。食べる時にはご飯が冷たくなり水分が内蓋に付きご飯が濡れて美味しくないと言っていた。また、とんかつの日にリンゴゼリーがついていて、ゼリーの汁気がとんかつに移りビショビショになっているらしく、美味しくないから食べたくないと言っていたが、盛り付けの工夫で美味しくすることができるのではと思う。

(日下部課長)

現場でも箱の中の盛り付けが乱れないように気をつけている。運搬中か学校に到着をして教室に運ぶ間に乱れが起こるのではと思う。ご飯の水分についてはそうかもしれないが、スクールランチで温かいご飯を提供している中ではやむを得ないと思う。それが今のベストではなく、今聞いた声を検証しなければと感じる。意見はありがたい。

(永野委員)

食べる時にはすでに冷たい状態なので、冷ましてから入れるとか、水分が蓋につかないような工夫ができると感じる。上の子が進級した際に給食制に変わり、最初はまずかったが改善され美味しくなったと思っているが、子供に聞けば、牛乳の残しが多いとのこと。持って帰ってはいけないのでスポーツ部員が飲んでいいる。女の子で牛乳が飲めない声もあるが、牛乳の飲み残しは残食量にも入っているのか。

(日下部課長)

残食量の中には入ってない。

(木谷委員)

牛乳は満腹感を感じやすいので残す人も多い。牛乳を飲んだ後、おかずに手が伸びるのかという話もある。以前はアレルギーの人、よくお腹を下す人、胃腸が弱い人は飲まないことが可能と聞いていたが、アレルギーがなくても牛乳を飲まない選択は可能なのか。牛乳を除いてほしいというニーズにはどう対処しているのか。

(日下部課長)

アレルギーで体質的に受け付けないニーズを聞いて対策をしているが、好き嫌いで牛乳抜きの希望には対応していない。牛乳も含めて栄養士が計算をしているので、牛乳も飲むことで給食の目的が満たされるとして提供している。

(山川会長)

体重に応じて必要なカロリー量は違う。体格差の個人差がある。平均値で出しているが、男女差でも必要な量が変わってくる。栄養計算を絶対とするのは違うと思う。

(佐藤副会長)

アンケート結果で、給食が嫌いの8%に対して、いつも残しているが36%。かなりの子供が残しているのはショックを感じる。理由として「食べたことがないので食べたくない(食わず嫌い)」「太りたくない」「友達が残すから」といった、思春期特有の理由もあるが、アンケート結果を一括で出すのではなく、男女別で出す必要があると思う。

(日下部課長)

男女で答えに違いが出ることも考えられる。ご意見として頂戴しておく。

(尾上委員)

大人がやればやるほど給食が好きではない子供は追い込まれていく。そして学校に行かなくなることに注意しなければいけない。私も小さい頃、食べることが好きではなく、やり過ぎたら子供たちに幸せな未来もなくなり、逃げ道を作らねばいけないと思う。

(永野委員)

大人は定食を食べる時にお茶を飲む。給食では牛乳を飲まされている。栄養を考えているというお話だったが、牛乳ありきの栄養素はどうなのか。おかずと合わなくて娘は毎回牛乳を残している。パンなら牛乳の組み合わせもあるが、和食に牛乳が出ると美味しくないと思う。

(山川会長)

20分で準備して食べて片付けるのはありえないと思う。どうしようもないのか。全国的にこれは普通なのか。

(日下部課長)

近隣の中学校では同じような時間だ。うちはスクールランチだが、自校式を採用しているところは準備に時間がかかり、昼休みを削るやり方で対応しているとも聞く。

(山川会長)

昔は昼休みを合わせると50分だった気がする。昔に比べると時間が短いのではないか。準備と給食の時間が20分。昼休み20分で合わせて40分。40分かけて食べられないのか。大人でも20分はきつい。

(日下部課長)

その様にはなっていない。

(森委員)

中学生はひとりで黙って食べているのか。雰囲気を作るのも大事だと思う。

(日下部課長)

資料1-2に写真が載っているが、こういう風に机を寄せ合わせたりして食べている。

(谷口委員)

3、4階の教室まで持ってくる間に10分ぐらい過ぎて、駆け込むように食べて10分。どうにか時間を作って遊びに出るのがほとんどで、食べるペースが遅い子は食べきれないで終わる。うちのスタッフの子は、小学校の時でも食べるのが遅くて、中学校になると10分以内で食べれる分しか食べられず、食べたくても食べきれない子供がいるのではと思う。中学校では一授業が50分と決まっている。小学校は45分で、午前中4時間なら20分少ないから給食に40分取れているけれど、中学校では仕方がないのかもしれない。子供の成長も考えると、食べきれず牛乳で飲み込む食べ方を推奨するのは、健やかな環境なのかと思う。年々口腔機能が落ちていて、そのまま成長する子供が増え、噛む力や嚥下力が弱くなってきている。小学校でもプチトマトやぶどうで窒息する事案が出てきているのも噛んだり飲み込んだりする力が衰えてきているからで、安全に食べることを本人たちが気をつける必要もあるが、環境面でサポートすることが命をつないでいく意味で大きいと思う。

(山川会長)

授業が終わる時間を後ろにずらして、給食時間を伸ばすことはできないか。

(日下部課長)

時間割は学校で決めることになっており、6時限の授業が終わるのが夕方4時。部活動が1時間で5時に終わり、下校する。5時を守るなら、あとは部活を削るしかない。朝8時半スタートで時

間を稼ぐ事も考えられるが、学校、保護者の負担バランスはよく考えないといけない。可能性がないわけではないが、どこかに負担が行くと考えている。

(山川会長)

融通をきかせて10分ぐらい伸ばせないかと思ったが制約があり難しいと聞いた。でも異常な感じがする。

(寺島委員)

担任の裁量で時間を少し伸ばしたり、判断で選択する体制ができないのか。

(山川会長)

実証実験は時期や期間で結果は変わる。他の方法でやれることからスタートして欲しい。

(2) 「住み続けられる持続可能な地域」について

①有田課長から資料2-1～2-6について説明

②質問・意見

(山川会長)

立番の話で、手数料見直し前と同等の取り残し量になったとのことなので、そろそろ任意化の時がきたのではないだろうか。

(森委員)

取り残しごみはどう処理されているのかお聞きしたい。

(有田課長)

9割程度が排出者が持ち帰って再廃棄、もしくは自治会で再分別されており、取り残しの連絡をもらい市が回収しているのは1割程度である。

(山川会長)

それを今後無くしていくのことは次の論点として、ここでは任意化についてのご意見をいただきたい。5年ぐらい先にタイミングがあるかもしれないが、プラ製品の一括回収の関係で分別の変更が先にある可能性がある。然るべきタイミングで変えるべきだが、いつなのか。

(木山委員)

立番をシルバーに委託している自治会の数を教えてほしい。

(有田課長)

自治会が約380ある中で、シルバーに委託しているのが49自治会。延べ80人が立番されていると聞いている。費用は1回2時間程で3,000円程度とのこと。

(青山副会長)

取り残しは立番がいても発生するのか。

(有田課長)

立番でも目が届かないこともあるので、違反があればシールを貼って置いていく。

(吉田部長)

加えてごみ出しは8時までと決めているが、収集業者が10時に来る場合、その時間に持ってくる人がいる。

(木谷委員)

シルバー人材センターの場合、明らかに不適切なごみを出されても注意できない事がある。自治会費の負担でお金を払う意味があるのかと思っている。自治会費から出すと言うと、相応の費用を自治会員に負担させているので、結局は限界ではないかと。

(森委員)

立番をやっていて思ったのは分別ルールが理解されていないということ。市民がちゃんと出せば立番はいらない。立番がいなくても皆がきちんと出せばいいと考える。

(青山副会長)

私は外の人間なので、市民では言いにくいこともあるだろうと思うが、森さんが言われたとおりだと思う。私は名古屋のマンションに住んでいるが、各地から越してきた人が住んでいて、時間や曜日などのごみ搬出ルールが浸透しておらず集積場所は混乱していた。猫が食べるためごみが散乱し、何回か掃除をしたが、掃除をすると他の住人は混乱した現状に気づかないと思い掃除をやめた。すると、誰かがマンションの管理者に連絡したことから、搬出時間や不適物の案内、搬出場所の扉を閉めるなど様々なアナウンスがあった。混乱は半年ぐらい続いたが、そのことで、住民は「ルールを守らねばならない」と気付く機会を得ると思う。立番廃止後は混乱すると思うが、気づきの機会として市は収集しないのもいいのではないか。昔のコミュニティはお互い助け合うことで良かったが、立番を必ずしなければならぬので自治会を辞める人は出てきている。立番はやめ、分別しなければ取り残されるようにするとよい。昔、東京都は自分が出したごみに名前を書かないと回収しないという時期があったが、住民が分別の重要性を理解し自律的に機能し始めた時点で、現在実施している立番制度を順次撤廃するのが、じわじわと廃止して市民がルールを理解しないよりも得策なのでは。そうした実証実験をするのはどうか。

(吉田部長)

平成 10年にごみ分別の仕組みを始めてから自治会と市役所との役割分担として立番制度をお願いしている。分別を徹底してもらうよう助けてもらうのが 1 点。道路際に集積所を設けている自治会は、他の自治会員に往々にして分別不十分なおみを排出されることが 1 点。現在立番制度を実施している自治体はほぼないが、制度導入時は立番をしていただく代わりに、分別不十分なおみが出た場合は、一定期間その啓発・周知のために残すが、その後は市で回収をするという約束だった。今出た意見としては自治会の立番はなくし、残ったごみは自治会で処理していただきたいとのこと。舞鶴市は立番をしていただいたうえで集積所に残ったごみは市が回収する。立番制度の有無どちらがいいかについて、個人的には迷っている。「立番はいらないけどごみは残す」か「立番をしていただく限りにごみは回収する」か。相当葛藤があったが、今話を聞いて 9割ぐらいは自治会で処理していただいている現実があるのであれば、立番の話はなくなってしまう。ただし、青山先生が言われるとおり当面は荒れると思う。性善説に立ってだんだん良くなるという希望的観測は持ちたいと思うが、荒れることに対して、どう向き合うかということになる。日立市の例もあったように、自治会で集積所に残ったごみ処理をする体制の自治体も、地域側の負担になることで、行政側で残ったごみを回収する団体が出てきた。綾部市も最近、残ったごみを行政で回収するという話になったと聞いており、動向としては変わりつつあると思っているので、この審議会において任意化の方向性は既に審議をいただいている、いつやるかのところで、まだ取り残しが多いということで立番を残したが、今ほぼ令和 3年度の改正時まで取り残し物が少なくなり、立番をなくすタイミングでないかと提案をしている。

(山川会長)

異論はないことで進めてよろしいか。その上で、残り残しをどうするかや注意点、これもしておく必要がある等、ご意見をいただきたい。取り残しごみは基本的に地域で対応していただく形になるのか。

(有田課長)

一定期間取り残しておくのは必要と思っており、その上で自治会の協力でお世話になるラインをどこまで分担するか考える必要がある。よその自治会からの持ち込みだとか、不法投棄もあることから、行政で最終回収する体制を確保することは必要と考えている。

(山川会長)

出ている以上は回収しないという選択肢もある。

(吉田部長)

府内の自治体では概ね残しているが、行政が最後処分する方向になってきている。先生が言われるように残す選択肢は、我々も考えてないわけではない。

(有田課長)

ヒアリングした事例を紹介すると、福知山市は取り残しのごみを自治会で細分して次の収集日に出すのが基本だが、不法投棄や程度のひどいものは市で回収することもあると聞いている。綾部市は本年度から変更され、市で回収する形になっている。宮津市は一切回収をしない。亀岡市も原則自治会で再分別するが、再分別用の袋は無償で渡されているし、不法投棄のタイヤなどものによって市で回収することもある。

(佐藤副会長)

取り残しがあり自治会で再分別するのは、自治会の負担が増える。

(山川会長)

資材配置だけはやってもらい、立番をせずに帰ってもらっていいけど、資材配置が残るということは、設置するためのごみ当番は必要で、その人が再分別する可能性もある。

(吉田部長)

一番にごみを出された方が資材を設置するルールを設けている市があると思う。自治会で全て再分別してもらうのは、9割の自治会は今もやってもらっているのに、残る1割の市で回収している分を新たに再分別していただく形になる。自治会に加入しない人が出したごみを自治会で再分別する必要があるのかと苦情が入る事も想定される。

(山川会長)

舞鶴市の原案はどうなっているか。

(有田課長)

ポイントは、立番をやめることで自治会の負担が軽減されるということ、不適正排出の防止は、例えばパトロールを「程度がひどい」「マナーが悪い」ところで行うという考えもある。資材の配置でコンテナや看板の設置をしていただいております、これは最初の方がされるのもいいが、自治会に継続していただきたいが、行政と自治会のライン分けを今後詳細に整理しなければと考えている。看板も本当にいるのか、資材配置を簡素化できないか考えていきたい。不適正排出の取り残しは、改めて一定期間を置くことは必要と考えている。最終的な取り残しごみへの対応、悪質なものについては、回収体制を確保する必要があると考える。そういった点を抑えて、詳細ルールを考える必要がある。

(吉田部長)

私はコミュニティ政策も担当もしており、自治会の業務の棚卸しをやっていて、負担が大きいので、行政からのお願いを減らすことをやっている。その中で自治会サイドから一番の負担だと出てくるのが、ごみの立番という背景もある。ごみ審議会の前期で、任意化の方向性が示されており、立番を続ける状況ではないと事務局も考えている。取り残しごみの処理には迷いがある。何も近隣の自治体に合わせる必要はなく、舞鶴市としてどうするかだが、明確な事務局案はなく、審議会の皆さんに率直なところを聞かせていただきたい。

(尾上委員)

私の地域も、ごみ排出時間に活動できる人は少なく、ごみ当番がすぐ回ってくるし、ごみの取り残しは必ずある。取り残しは中途半端に手出しをせず、自治会と行政がどこまで頑張るのかバランスを、自治会と個別に話し合うなどできたらいいと思う。自治会ごとに事情は色々と思うが、意欲的な方々と相談し調整するやり方は可能なのか。

(吉田部長)

我々が一番苦手なのは、あそこでやったけどここでは違うと言われる事。その時に応じて自治体の世帯状況も変化していくため、個別対応は難しい。

(尾上委員)

取り残されたごみを回収するか回収しないかの話。基本は連絡があったら回収する方向か、もしくは連絡があっても回収はせず、何週間後かに回収する方向か。

(青山副会長)

デジタルを使った面白い事例として、金沢の近くの町だが、最近町内会のデジタル化が進み、立番はせず、スマホアプリがその日に出せるごみを毎日知らせてくれる。住民の約9割がアプリに参加しているのだが、その自治体でも違反ごみがよく出て、違反ごみの写真を情報共有し、出した方へ即刻取りに来るようメールを出す事ができる。監視体制は役員が当番で見回りをされ、集積所に監視カメラを設置され、それで大体処理ができています。どうしても処理できないものは行政がされているようだが、自治会でうまく対処されているとのこと。違反ごみが排出された際の動画や写真である程度特定が可能なことから、出した方が回収するようになっている。デジタル化が進んでるような自治体はないか。

(吉田部長)

ラインのグループで回覧板に替えている話は聞いたが、このごみの話は聞いたことがない。

(青山副会長)

アプリには学校だより、リユース、リサイクルの案内も集約されている。使用可能で譲りたい品があれば情報を流し、希望者に譲る事や、余った野菜の苗の情報も来る。立番をやめるとしても、住民たちが自覚を持たないと地域は良くなる。しばらくは混乱するだろうが、自分達がやらなければという意識をみんなが持つといいコミュニティになると思う。

(谷口さん)

シルバーに立番を委託している自治会が49あると聞いたが、平成10年5月からあったのか。委託により、町内の方が立番をしていない一方で、立番の副次効果としてコミュニティ活性化のメリットが挙げられている。私も市外から舞鶴市にきて、立番をして地域の人と面識を持っていたので効果の実感はあるが、シルバーへの委託が当初からあったのなら無意味だったのではないかと思うが。

(吉田部長)

平成10年に始めてから5年間ぐらいは各自治会の分別状況をチェックしてもらっていた。その後、6～10年の間に委託の話聞いた。集積所の管理は自治会にお願いをしていたので、シルバーに委託するとしても自治会に責任を持っていただくとして、必ずしも立番を住民がしないといけないのではないとしていた。シルバーの方もはじめは分別ルールをチェックしたり、分別できてないごみの注意等をされることもあったが、だんだん劣化してきたことを行政側がチェックできなかった可能性がある。自治会の責任で集積所を管理していくうえで、シルバーへの立番委託について市は不適切と考えなかった。

(寺島委員)

立番が85歳を過ぎた方で、体調が悪くなり倒れかけたことがあった。立番を高齢者で実施すると、体調不良になった際に誰が責任をとるのかということもあり、自治会では80歳以上で体調が

優れない方は立番をしないようにと話を進めているが、立番が廃止となれば、ごみの分別について教えてくれる方がいなくなり困るという意見もある。また、立番廃止後の自治会による集積所の管理責任が増加するのは負担になるとの懸念がある。廃止するのならいい方法で立番を廃止して欲しい。

(谷口委員)

自治会管理のスタンスでいくなれば、立番の任意化後、当面は混乱が起きるだろう。役員がごみ当番となることがないようにできるかが懸念。一定期間だとしても、混乱が起こっている際に当番になった人は大変ではないか。公共の心で混乱時に大変な思いをされ、地域や人付き合いが煩わしいとのイメージをごみを通して経験されるのはすごく残念。

(青山副会長)

愛知県の町ではコミュニティという言葉がある。つまりゴミを基軸にして地域がまとまる。混乱が発生すると、その地域でどうかしないという方向性が生まれ、対策を話し合いそれを期に結束力が生まれる事例があった。住民が素知らぬ顔をするのではなく、やれる人が引っ張ってコミュニティを動かしていくのだと思うが、その人に負担が集中しないように周囲も支えて交代で運営するルールができていくことがある。舞鶴市は公共心が高い人がたくさんいるので、そのあたりが逆に試されると思う。

(谷口委員)

中心的な人物が自然発生することを待つ事になるのではないか。公共心の高い方はいるだろうが、性善説の話をするのではなく、まとまりからこぼれ落ちる人やついて来ない人がいたとしても、取り残しが増えることのないよう、仕組みを考えるとどれぐらいの配慮ができるのかを想定しないといけない。

(青山副会長)

役所から市民へのPR活動、啓蒙活動、実験をいくつも重ねて、コミュニティのまとまりを促すことは可能かもしれない。混乱状態が起きた時に、どう役所として対処するべきかは考えないといけない。立番制度が始まったとき、私が最初に吉田部長に連れて行ってもらい集積所を何箇所か回ったが、大変なことだと思った。立番ができるのはいいいコミュニティだと思う。地域が良いコミュニティになっていくことは、これから考える上で非常に重要なことだと思う。

(山川会長)

時間となったので次回の審議会に持ち越す。本日の場で意見を伝えきれなかった人は、事務局へ連絡してほしい。立番は全国的には少数だが、舞鶴市では実施できており不可能だと考えてはいない。市町村には一般廃棄物に対する一定の責任があるため、問題を放置することはできない。ステーションに取り残されたごみへの対応だけでなく、事前に問題を予測し解決策を検討する必要がある。自治体として地域単位で働きかけ、問題解決に努めていく必要がある。舞鶴市として今後どのように進めていくべきか検討は必要だが、過度に心配する必要はないと考える。

(3) 閉会

(吉田部長)

1点目は取り残しごみについて、委員にお聞きするかもしれないが、忌憚のない意見を聞かせてほしい。2点目は資料のペーパーレスの件。一度試してみて、今まで紙ベースで資料をご覧になっていた方が、端末で資料を見られた時にどういう不都合があるのかを含めて、次の12月の審議会にて試す機会にしてご意見をお伺いしたい。